

日本版ISAの道 その13

ISA本家・英国のISAファンド17兆円がリスクオン。
英国高配当株が特に人気。

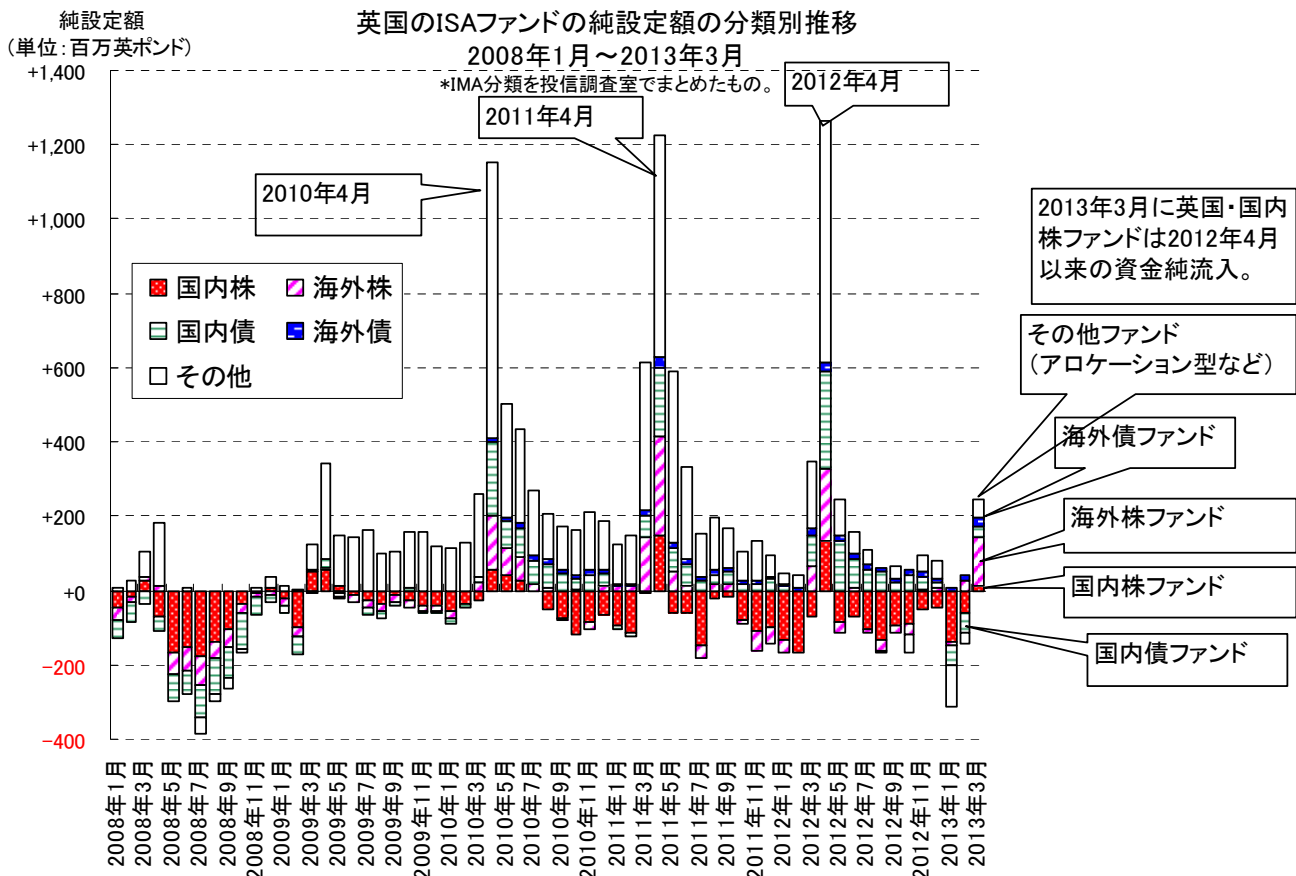
※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

ISA 本家・英国で投信の純資産は 103 兆円、ISA ファンドはその 17%にあたる 17 兆円

2013年5月3日(金)に英国投資運用業協会(Investment Management Association/IMA)より英国の投資信託概況(Fund statistics)が発表されている。2013年3月末に英国籍投信全体(Total funds under management)の純資産は7185億英ポンド(約103兆円~2013年3月末の143.15円/英ポンド換算)、うち英国ISAファンド(ISA funds)はその17%にあたる1217億英ポンド(約17兆円)となっている。2013年3月末の日本籍投信全体純資産113兆円(=公募78兆円+私募35兆円)に先のISAファンド比率17%を掛けると19兆円となるが、これは日本版ISAの2020年までの目標25兆円が現実的である事の根拠の一つである(「日本再生戦略」より)。

英国のISAファンドは毎年4月に純流入が集中する傾向

2013年3月に英国籍投信全体の純流入(Total net sales)は+1178百万英ポンド(約1700億円)、うち英国ISAファンドはその21%にあたる+244百万英ポンド(約350億円)である。3か月ぶりの純流入で、2012年4月以来の大きな純流入だが、どこか少ない様にも見える。これは英国のISAファンドは毎年4月に純流入が集中する傾向があることも要因だ。4月5日の課税年度終了前の駆け込み投資に4月6日からの新年度投資が加わる。



(出所: IMAより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

英国 ISA ファンドは 2013 年 4 月 1～5 日に大量の純流入。英国の 4 月を中心とする ISA 商戦に対し、日本は 1 月に向け日本版ISA(愛称「NISA/ニーサ」)商戦か?

2013 年 4 月分は 2013 年 6 月初旬にも発表されるが、既に 2013 年 4 月 5 日までの 5 日間については英国投資運用業協会より発表されている。4 月 1 日～5 日に ISA ファンドへは+347 百万英ポンド(約 500 億円)の純流入があった。+347 百万英ポンドは 2012 年 5 月から 2013 年 3 月までの 11 カ月のどの月の純流入額よりも大きい。2013 年 4 月分の英国 ISA ファンド純設定は、英国株式パフォーマンスの好調もあって前年同月 2012 年 4 月の 1264 百万英ポンド(約 1640 億円～2012 年 4 月末の 129.58 円/英ポンド換算)を上回る可能性が高そうだ。尚、2012/2013 課税年度(2012 年 4 月 6 日～2013 年 4 月 5 日)の純流入額は合計+1126 百万英ポンド(約 1480 億円～同期間の平均 131.34 円/英ポンド換算)であるが、それを 2012 年 4 月の純流入額が超えているのも驚きだ。12 月を中心とするクリスマス商戦や 2 月を中心とするバレンタイン商戦とは違うが、4 月を中心とする ISA 商戦と言うことが起こっても不思議ではない。日本では、課税年度が暦年なので 12 月 31 日の課税年度終了前の駆け込み投資に 1 月 1 日からの新年度投資が加わることが予想されるので、毎年 1 月に向け日本版ISA(愛称「NISA/ニーサ」)の商戦が起こるのかもしれない。

[参考ホームページ]

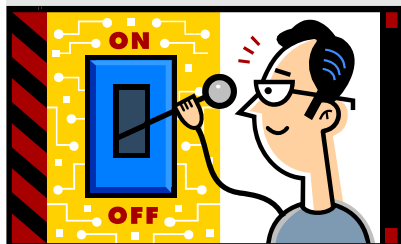
英国投資運用業協会(Investment Management Association/IMA)…「<http://www.investmentfunds.org.uk/>」、日本の投資信託協会…「<http://www.toushin.or.jp/statistics/statistics/data/>」、2012 年 7 月 31 日に閣議決定された「日本再生戦略」(p.40「金融戦略」)…「http://www.cas.go.jp/jp/tpp/pdf/2/10.20120918_5.pdf」。

英国の ISA ファンドも債券より株式、リスクオンへ～あなたの ISA の大きなテーマ～

前頁のグラフ「英国の ISA ファンドの純設定額の分類別推移」を分類別に見ると気付くのが、まず、2013 年 3 月に国内株ファンドが+11 百万英ポンド(約 15 億円)の純流入と、2012 年 4 月以来初の純流入となったことである。課税年度の関係で純流入が集中する 4 月を除くと、2010 年 6 月以来初の純流入となる。次に、海外株ファンドが+133 百万英ポンド(約 191 億円)の純流入と、2012 年 4 月以来の大きな純流入となったことだ。課税年度の関係で純流入が集中する 4 月を除くと、2011 年 3 月以来の大きな純流入となる。

英フィナンシャルタイムズ/FT 紙では 2013 年 3 月 1 日に「あなたの ISA の大きなテーマ(原文: Big themes for your Isa)」と言う見出しで、「株式型 ISA(stocks and shares Isa)で 2013 年に残る非課税枠をどこに投資するかまだ決まっていない? 2012 年は多くの投資家が英国高配当株(UK equity income)を選んだが、2013 年について多くのファイナンシャル・アドバイザーは株式が債券より価値を与えそうだということに一致している。ここ数年、債券も選択されたが、利回りが低下、投資家は株式に資金を投じ始めている。」と報じていた。本家・英国の ISA ファンドもリスクオンへ向かっている様に見える(※1 参照)。

※1: リスクオフ/リスクオン…海外では「Risk-on/risk-off」、略して「RORO」と呼ばれる。「現代用語の基礎知識 2013」には次の様に出ている。その一部を引用すると、「金融取引において『リスク回避』で望むか『リスク志向』で望むかの取引方針。金融危機に際して、また信用、景気などに懸念材料が出ると、投資家は投資を安全な資産へ切り替える。期待利益は小さくなるが損失も小さく抑えようとする。こうした対応がリスクオフである。逆に投資家が相場見通しに自信をもつときは、積極的にリスク資産に投資して高収益をねらう。これがリスクオンである。」。



[参考ホームページ]

英フィナンシャルタイムズ/FT 紙の ISA 関連記事…「<http://search.ft.com/search?queryText=Isa>」。

バフェットが「ひどい投資」と言う債券投資が英国のISAでは依然として人気?

ところで英フィナンシャルタイムズ/FT紙ではより最新の2013年5月10日に「バフェットのひどいと言う債券投資に代わるもの(原文: Alternatives to Buffett's 'terrible' bonds)」と言う見出しで、「世界4番目の富豪ウォーレン・バフェットは債券投資を『ひどい投資(terrible investments)』と言う。だが、債券投資は依然として人気がある。英国投資運用業協会(Investment Management Association/IMA)によると、ISAで2012/2013課税年度(2012年4月6日～)に最も売れた分類は英国ストラテジック・ボンドだった(原文: The best selling sector for Individual Savings Accounts (Isa) money in the most recent tax year was the Sterling Strategic Bonds, according to the Investment Management Association). だが、ここ数カ月で投資家は資金を債券より株式により投資してきた。」とも報じている。

2012/2013課税年度に最も売れた「英国ストラテジック・ボンド(the Sterling Strategic Bonds)」とは、ハイイールド債を含む社債、外債、株に投資するものだが(*米国投信の「ストラテジックインカム」に似る)、確かに下記テーブルの通り、過去の分類別・年間純設定(=設定-解約)を見ると、英国ストラテジック・ボンドは2012年(4月～翌年3月)に最も売れている。一方で英国株はすべての年度で最下位である。

英国ISAの分類別・年間純設定(=設定-解約) 純設定が大きい順 2008年～2010年
2008年(4月～翌年3月) 2009年(4月～翌年3月) 2010年(4月～翌年3月)

順位	IMA分類 (英国投資運用業協会分類)	IMA分類 (英国投資運用業協会分類)	IMA分類 (英国投資運用業協会分類)
上位5分類	1 株20～60%、英ポンド30%以上	株20～60%、英ポンド30%以上	株20～60%、英ポンド30%以上
	2 元本確保型	元本確保型	英国ストラテジック・ボンド
	3 英国グロース・アンド・インカム	英国グロース・アンド・インカム	エマージング株
	4 アジアパシフィック株(含む日本)	株40～85%、英ポンド25%以上	グローバル株
	5 絶対収益型(英国)	英国ストラテジック・ボンド	絶対収益型(英国)
下位5分類	5 英国高配当株	フレキシブル・インベストメント	英国投資適格社債
	4 株40～85%、英ポンド25%以上	英国株式・英国債券	欧州株(含む英国)
	3 欧州株(除く英国)	英国投資適格社債	英国株式・英国債券
	2 英国投資適格社債	欧州株(除く英国)	欧州株(除く英国)
	1 英国株	英国株	英国株
	全34分類	全33分類	全33分類

(出所: IMAより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

英国ISAの分類別・年間純設定(=設定-解約) 純設定が大きい順 2011年・2012年
2011年(4月～翌年3月) 2012年(4月～翌年3月)

順位	IMA分類 (英国投資運用業協会分類)	IMA分類 (英国投資運用業協会分類)
上位5分類	1 株20～60%、英ポンド30%以上	英国ストラテジック・ボンド
	2 英国ストラテジック・ボンド	株20～60%、英ポンド30%以上
	3 株40～85%、英ポンド25%以上	グローバル高配当株
	4 エマージング株	エマージング株
	5 グローバル債	グローバル債
下位5分類	5 英国投資適格社債	英国株式・英国債券
	4 英国高配当株	グローバル株
	3 英国株式・英国債券	元本確保型
	2 欧州株(除く英国)	欧州株(除く英国)
	1 英国株	英国株
	全36分類	全36分類

(出所: IMAより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

ISA ファンドの人気 1～3 位は英国高配当株、エマージング株、グローバル高配当株

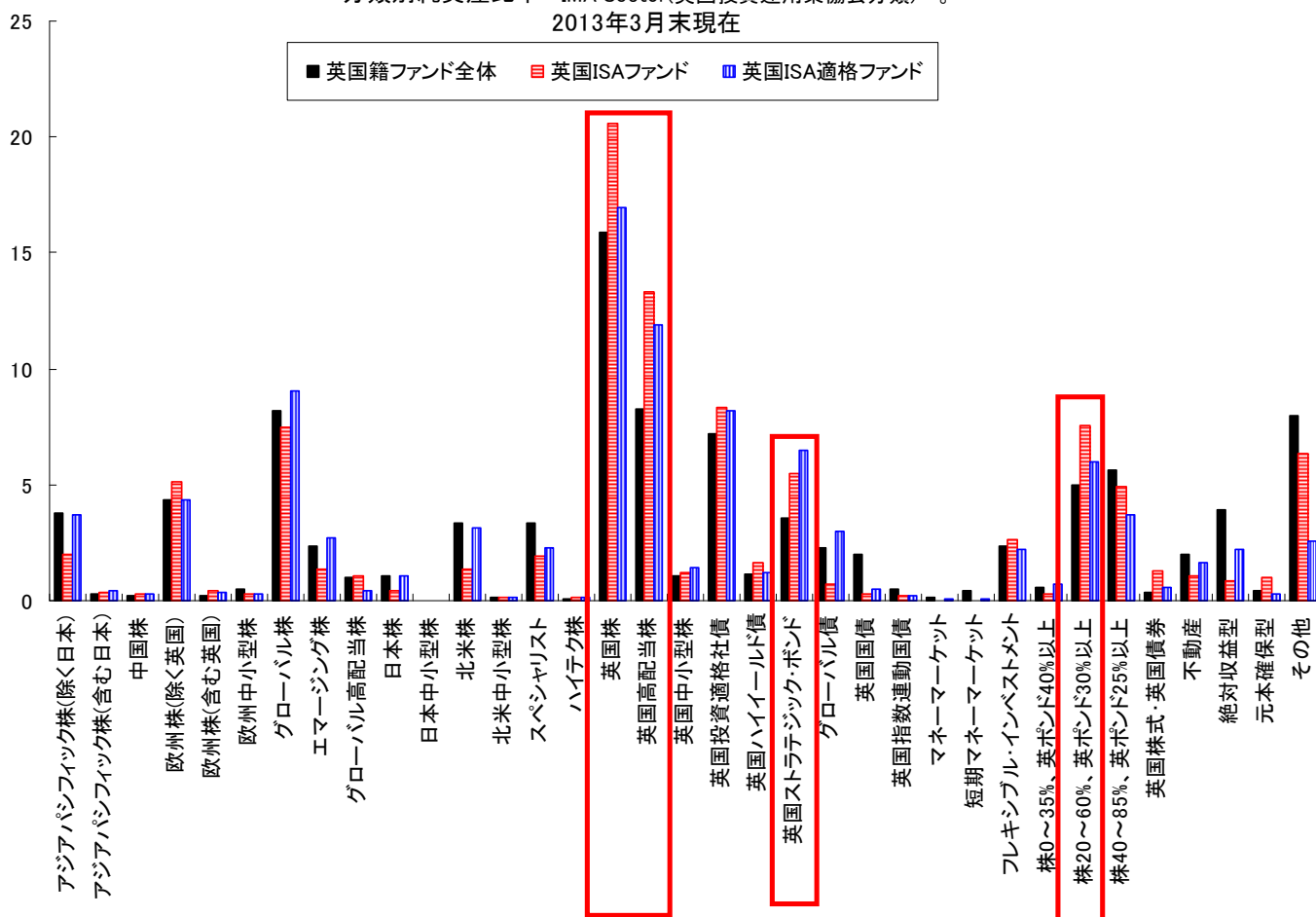
2012/2013 課税年度に最も売れた「英国ストラテジック・ボンド(the Sterling Strategic Bonds)」だが、最新月ではどうだろう？ 最新月 2013 年 3 月においても、国内債ファンドの一つである「英国ストラテジック・ボンド」(*2012 年 1 位)は 2013 年 3 月に+32 百万英ポンド(約 46 億円)の純流入で分類上位だ。しかし国内株ファンドの一つである「英国高配当株(UK Equity Income)」(*2012 年 12 位)は 2013 年 3 月に+46 百万英ポンド(約 65 億円)の純流入で分類 1 位となっている。海外株ファンドの一つである「エマージング株(Global Emerging Markets)」(*2012 年 4 位)は 2013 年 3 月に+33 百万英ポンド(約 48 億円)の純流入で分類 2 位である。同じく海外株ファンドの一つである「グローバル高配当株(Global Equity Income)」(*2012 年 3 位)は 2013 年 3 月に+32 百万英ポンド(約 46 億円)の純流入で分類 3 位となり、2012 年に 1 位だった「英国ストラテジック・ボンド」は 4 位となっている。英国の ISA ファンドはリスクオン、債券より株式、へ向かっている様にも見える。

ISA ファンドの構成比率が高い分類は、英国株、英国高配当株、ミックス・インベストメント(株 20～60%、英ポンド 30%以上)、そして、英国ストラテジック・ボンド

最後に、これまで見てきた ISA ファンドを含む「英国籍ファンド全体と英国 ISA ファンドと英国 ISA 適格ファンド(*英ポンド建て)」の分類別純資産比率を見た(英国 ISA 適格ファンドについては※2 参照)。総じて、投資対象(分類)は大きく変わらないが、その中でも、英国 ISA ファンドの構成比率が高い分類は、英国株、英国高配当株、ミックス・インベストメント(株 20～60%、英ポンド 30%以上)、そして、英国ストラテジック・ボンドである。先の 2013 年 3 月の純流入の結果と合わせると、「英国高配当株(UK Equity Income)」が特に人気の様に見える。

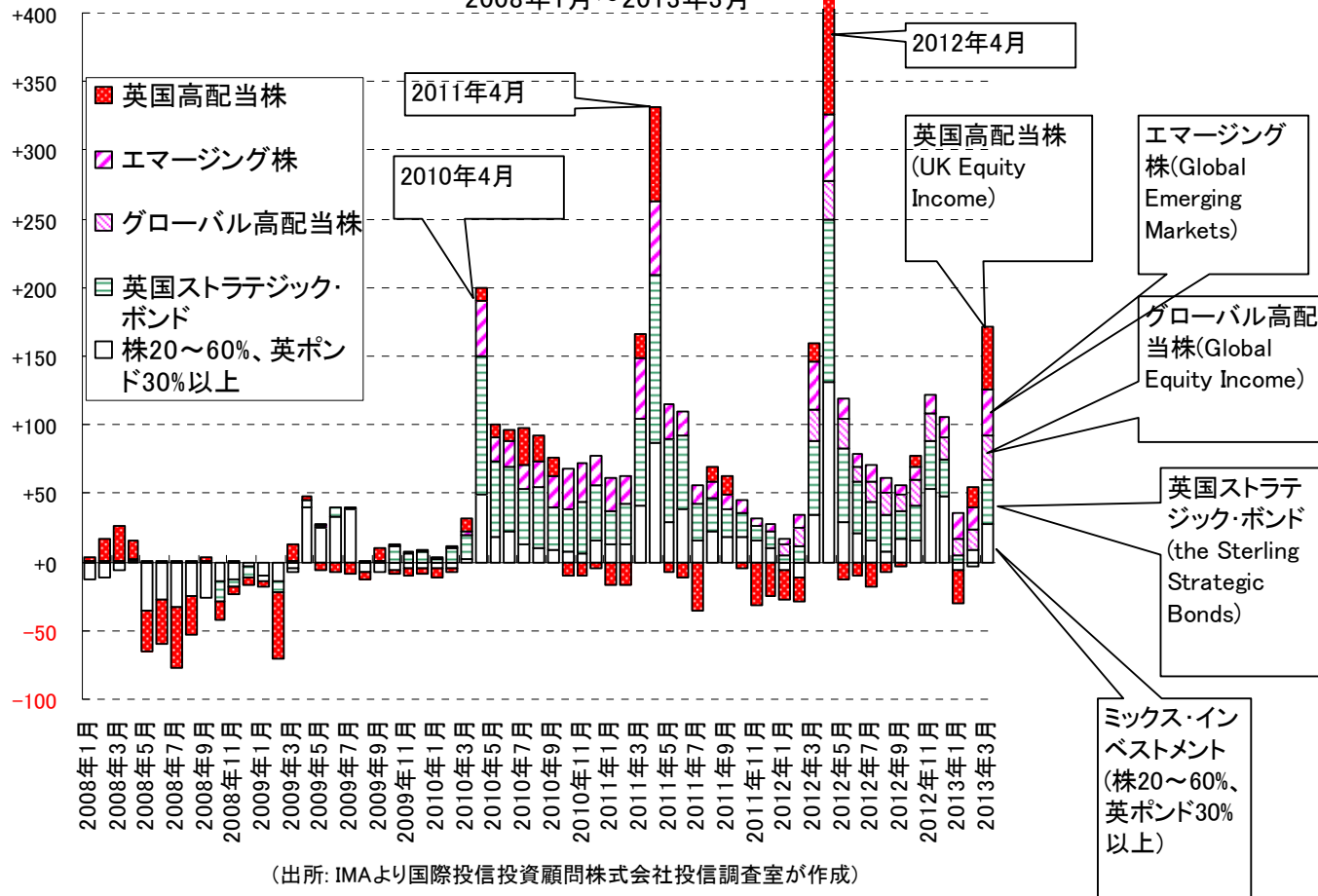
(単位: %)

英国籍ファンド全体と英国ISAファンドと英国ISA適格ファンド(*英ポンド建て)の
 分類別純資産比率～IMA Sector(英国投資運用業協会分類)～
 2013年3月末現在



(出所: 英国投資運用業協会/IMA及びIbbotsonより 国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

純設定額 英国のISAファンド純流入上位分類(2013年3月)の純設定額の分類別推移
(単位:百万英ポンド) 2008年1月~2013年3月



※2: 英国 ISA 適格ファンド…英国 ISA「適格」のファンドとなるには基準があって、それは「ISA の手数料 (Charges)が年 1%以下、最低預入額(Access)が 500 英ポンド以下、その他条件(Terms)として 50%以上を EU 取引所上場株式等に投資している事」であり、これを「fair Charges, easy Access and decent Terms」の CAT 基準と言う。ISA 適格ファンドは、ISA 専用ファンドでないため、ISA 以外で保有する分を含むその純資産はかなり大きくなるのだが、個別ファンドの商品性(分類など)は参考となろう。

以上
(投信調査室 松尾、窪田)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISAに関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
 - 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
 - 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
 - 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。
- また、国際投信投資顧問が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。